

令和6年度中予保健所運営協議会の開催結果

- 1 会議の名称
令和6年度中予保健所運営協議会
- 2 開催日時
令和7年1月16日（木） 15:00～16:30
中予地方局7階 大会議室（松山市北持田町132）
- 3 出席者等 委員18名（うち代理出席5名）、事務局25名
傍聴者数 0人
取材の有無 なし
- 4 議事
 - （1）保健所の概要について
 - （2）松山圏域の災害医療対策（高病原性鳥インフルエンザの対応を含む）について
 - （3）保健所の主要事業について
 - ①松山構想区域地域医療構想について
 - ②感染症対策マネージャー養成事業について
 - ③自殺対策（未遂者支援）の取組みについて
 - ④食の安全・安心対策について
 - ⑤環境保全・廃棄物対策について中予保健所の主要事業等について各課から説明した。
 - （4）意見交換
主な質疑、意見は次のとおり

○災害医療対策（福祉避難所等）について

（委員）

福祉避難所に指定されているが、老人ホームの利用者と職員のための物資は備蓄していても福祉避難所に避難してくる方達の準備はなされていないため、どう準備を進めていけば良いのか悩んでいる。福祉避難所指定施設と行政で、話し合いの場を持つことができればありがたい。

（回答）

熊本地震でも、能登地震でも、福祉施設での災害対応は非常に大きな課題としてクローズアップされている。そうした中で、施設では福祉避難所として日々備えていただいていることに心から感謝を申し上げる。

地震対策の課題を勉強しながら、県としても、管内市町の福祉関係部

署や施設と連携し、体制づくりや対応を進めてまいりたい。

○災害支援ナースについて

(委員)

愛媛県では災害支援ナースを養成しているが、派遣の仕組みやナースの役割についての周知が行き届いていないので、共有していく機会があればと思っている。

(回答)

先の西日本豪雨の際、県内の災害支援ナースに支援いただき大いに助けられた。災害時には、外部の支援が非常に重要であり、災害支援ナースの周知、活用とともに、関係者と情報共有して対策が取れるよう努めてまいりたい。

○高原病性鳥インフルエンザについて

(委員)

海外で、鳥から人への鳥インフルエンザの感染により、初めての死亡が確認されたと聞いている。そのあたりの情報はないか。

(回答)

基本的には、鳥インフルエンザは人には感染しないとされているが、世界的にみると鳥から人への感染がまれにみられる。昨年12月の西条の養鶏場での鳥インフルエンザ発生時には、通常の季節性インフルエンザが急拡大しており、防疫活動に従事した方には10日間の健康観察を行った。なお、健康観察期間中に発熱し、医療機関を受診してインフルエンザA型が出た場合には、遺伝子検査を実施し、鳥インフルエンザではないことを確認した。

世界的に見ると、渡り鳥により国内に入ってくるパターンと、アメリカ等では、乳牛から感染するケースが報告されている。動物での感染症の状況は、農林水産省や厚生労働省から情報提供があるので、その動向を注視していきたい。

○地域医療構想（救急医療体制）について

(委員)

救急車の出動回数は、全国的にも増加傾向にあるとの報告もあり、夏の猛暑による熱中症患者の搬送増加や、インフルエンザの流行、また患者に占める高齢者の割合が増加していることが影響しているものと考えている。地域住民の方々へは、救急車の適正利用、救急相談窓口である「#7119」の活用を啓発している。

(委員)

救急車の出動回数は、年々増加傾向にあり、愛媛県は全国と比較して、搬送患者のうち軽症者の占める割合が多いと聞いている。行政でも「#7119」などの啓発がさらに必要になると思う。

救急車の利用料を設定し、救急医療の資金にするのも一案ではないかと思う。軽傷でも救急車で来た場合は診察が早くなるため、長時間待つ患者とのバランスを考えると、そういった働きかけができてよいのではないかと感じている。

○感染症対策マネージャー養成事業について
(委員)

中予保健所で「感染症対策マネージャー」の養成をしていただき、感謝している。受講した職員はエビデンスを持って説明しやすいと感じている。また、感染症対策マネージャーがいる施設の方が優れた対策を講じ、対応も早いと感じる。